

国立大学法人京都工芸繊維大学

# 環境安全報告書

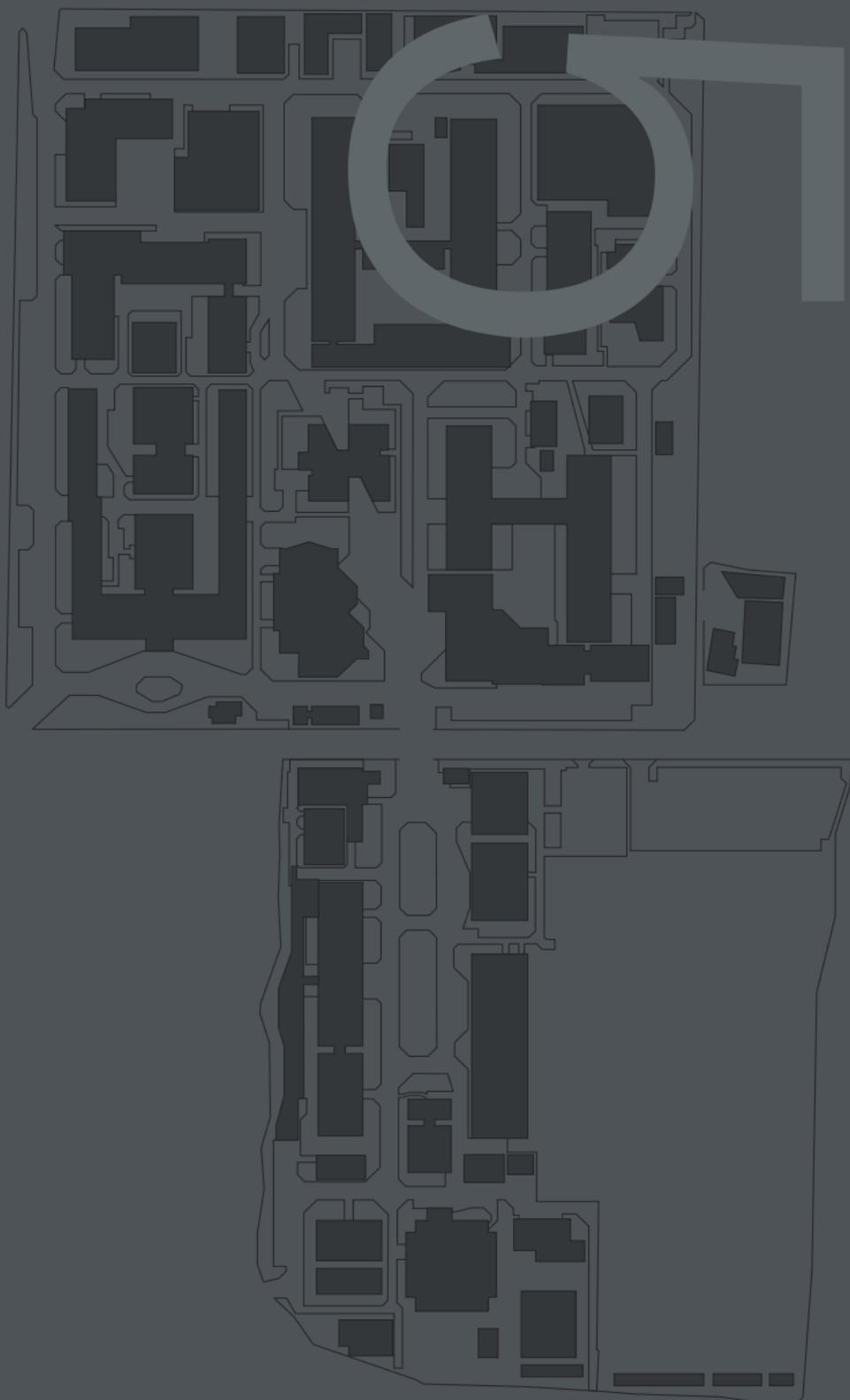
[ダイジェスト版]

Kyoto Institute of Technology

# Environment and Safety Management Report

[Digest Version]

2025



# 京都工芸繊維大学 トップメッセージ

京都工芸繊維大学は、世界に知られた歴史文化都市「京都」にある国際的工科系の国立大学です。京都の文化・文明は、技術・品質を備える匠のものづくりと信頼関係により培われてきました。また、単に技を継承するだけでなく、古くから革新的な挑戦を続け、独自の先端産業が発展しグローバルに展開しています。このような京都をつくり上げた心意気と創造的挑戦心を、本学は「京都思考」と表しました。京都思考を教育・研究に活かし実践することで、地球と日本の未来を担う人材の育成を目指しています。

これは、本学環境安全方針の基本理念である「環境安全に関する教育研究を積極的に推進し、現代社会が直面する環境課題を認識し解決する能力を備えた人材の育成と、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた科学技術イノベーションを通じて、持続可能な社会の構築に貢献する。また、大学活動の全てにおいて環境との調和と共生を図りながら、環境負荷の低減と環境保全に努める。」と軌を一にするものと考えています。

このような基本理念のもと、本学では、環境安全基本方針として、「環境安全マインドの育成」「環境負荷の低減」「法令遵守」「継続的改善」「コミュニケーション」を掲げ、環境安全を積極的に推進してきました。その結果、学内教職員の環境安全意識は大きく向上し、本学の環境安全は格段に改善されました。これを受け、本年度からISO14001認証を返上しました。

今後も、継続して環境安全方針と環境安全目標を掲げ、安全衛生自主巡視活動や安全衛生パトロール等の環境安全活動を推進します。特に、環境安全保健委員会や施設委員会、環境科学センターなどが緊密に連携しながら、効果的な運営や評価を進めます。また、認証取得を目的とした書類の作成業務は軽減し、業務の効率化と負担軽減を図ります。これらは、いまや国を挙げての課題になっている研究時間の確保にも資することになります。

また、工科大学における化学物質管理は、最重要課題です。化学物質管理の自律化を目的とした労働安全衛生法施行令等の改正を受けて、本学でも令和6年3月に新たな化学物質管理規則を制定し運用を開始しました。引き続き、化学物質等について自主的かつ適切な使用及び管理を進めることが重要です。また、環境安全に関連した研究の推進は、工科大学の責務であることも忘れてはなりません。

本学では今後も、社会の要請に応じて、工科大学として適切かつ実効的に環境安全管理を進め、本学の活動に伴う環境安全リスクを最小化します。「京都思考」に基づき持続可能な社会の発展に貢献し、地球と日本の未来を担う「ほんまもん」人材の育成を進めていきたいと思ひます。今後とも本学の活動に対するご理解・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

京都工芸繊維大学長 最高管理者 吉本昌広



# 環境安全マネジメント

京都工芸繊維大学環境安全方針（2025年3月時点<sup>†</sup>）<sup>†</sup>—2025年4月に環境安全方針を改訂

## 基本理念

京都工芸繊維大学は、「人間の感性を涵養し、精神的な潤いや自然との調和を強く意識した、普遍性のある科学技術の創生」を基軸として、自然環境保全と安全の確保に配慮した教育と研究を積極的に推進し、科学技術の進歩と持続可能な社会の発展に貢献する。

## 基本方針

環境安全マインドの育成	1. 環境保全活動及び環境安全教育研究を継続的に推進し、環境と安全を常に意識しながら主体的に行動する人材を育成する。
環境負荷の低減	2. 大学運営と教育研究活動から発生する環境負荷の低減と省資源・省エネルギー・資源の有効活用に努める。
法令遵守	3. 環境安全関連法令及び自主基準を遵守し、教育研究活動による環境汚染や健康障害などの事故防止に努める。
継続的改善	4. 環境安全目標を設定して、環境保全活動の推進とリスクの軽減に努め、継続的に改善を図る。
コミュニケーション	5. 環境や安全に関わる情報を発信して、社会との相互理解を深める。

2022年4月1日 国立大学法人京都工芸繊維大学長 森迫清貴

## 環境安全目標

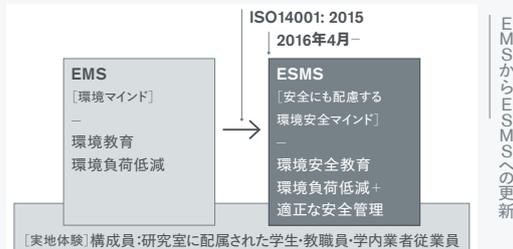
No	区分	目標
1	環境安全マインドの育成	・環境安全教育研究の推進 ・環境保全活動の推進
2	環境負荷の低減	・省エネ対策の推進 ・省資源対策の推進 ・廃棄物排出量の削減
3	法令遵守	・化学物質、高圧ガスの適正管理 ・実験廃液、廃棄物の適正処理 ・排水の適正管理 ・適正な作業環境の維持
4	キャンパス環境の保全	・キャンパス美化、緑化の推進
5	コミュニケーション	・社会に対する情報発信 ・地域社会との交流

## 環境安全マネジメントシステム

本学では「環境安全マネジメントシステム（ESMS）」を運用しています。環境安全方針において、環境だけでなく安全にも配慮した教育研究活動の活性化を宣言し、環境安全教育と実地体験による「環境安全マインド」をもつ人材の育成を重要な目標の一つとして掲げています。「環境安全マインド」とは、環境についての知識と環境改善を実施する実行力に加えてリスク管理など安全に配慮できる能力を指し、本学は、このような人材の育成によって社会に貢献することを目指しています。

本学は2001年に一部のサイトでISO14001<sup>†</sup>の認証を取得し、2003年には全校で拡大取得し認証更新を重ねてきました。認証取得から24年が経過しESMSの運用が本学に定着したことに鑑み、2025年度3月末をもって認証を返上しました。

<sup>†</sup>—ISO14001  
NPO「国際標準化機構  
(ISO: International Organization for Standardization)」が定めた、「環境マネジメントシステム」の規格。その組織が環境負荷を低減させる仕組みを構築し、正しく運用していることを一定の規格に基づいて認証する。



## 環境コミュニケーション

## 環境教育・研究活動 / 主要な環境パフォーマンス指標等の推移

本学では、環境や安全に関連する情報発信や地域への社会貢献を積極的に行っています。2013年度からはCOC実行本部（COC: Center of Community）を設置して全学的に地域志向の取り組みを推進し、地域課題の解決や産業の創出、工学系人材の育成に取り組んでいます。2016年には「地域創生Tech Program」を開設し、福知山キャンパスを拠点とした地域課題解決型の授業等に取り組んでいます。

### 1 | KIT環境サークル「あーす」の活動

地球温暖化やプラスチックごみの増加など、環境問題が深刻さを増す現代社会において、持続可能な未来社会を見据えた行動が一人ひとりに求められています。本学では、2022年に学生が主体となって環境課題に取り組む「KIT環境サークル『あーす』」が設立されました。持続可能な社会の実現を目指し、日常生活に根ざした具体的なアクションを通じて、環境に対する意識の変革と実践を促すことを目的として、学内外で多様な活動を展開しています。「脱炭素キャンパス」の実現に向けた具体的なアクションとして、2024年度は下記活動を行いました。学生たちが自主的に企画・運営を担い、教員が必要に応じて助言や調整をしました。

- 古着の再活用プロジェクト** 学内の古着回収ボックスからの定期回収に加え、企業と連携して10月に回収イベントを実施し、1000点を超える古着を回収しました。11月には学園祭（松ヶ崎祭）で配布イベントを開催し、約80％を無料配布できました。さらに、リメイクや刺繍、パッチ制作などのアップサイクルも行い、素材の再利用に留まらない創造的な価値を付与した作品を配布しました。イベントには地域住民も参加し、地域社会との接点を広げる機会となりました。**傘のシェアリング活動** 忘れ物や廃棄された傘にロゴやメッセージをデザイン・印刷してシェアリング用の傘とし、学内3か所にシェアステーションを設置しました。本学の強みであるデザイン思考と環境意識を融合させた取り組みであり、急な雨への対応とリユース文化の浸透にも寄与する、利便性の向上と啓発の両立を図る取り組みです。**企業との連携** 環境活動を社会全体へつ



1 | 古着回収イベントの様子



1 | 古着配布イベントの様子



1 | 傘のシェアリング活動の様子

## 環境教育・研究活動 / 主要な環境パフォーマンス指標等の推移

の日（6月5日）及び「環境月間（6月）」に合わせ、1995年から毎年6月に公開講演会「緑の地球と共に生きる」を開催してきました。2024年度は、7月の開催となりましたが、総合地球環境学研究所の浅利美鈴教授に「ごみは意外に雄弁だ」と題して、40年間にわたる調査を踏まえた現在の家庭ごみの内訳や年次推移、プラスチック問題などについてご講演いただきました。後半は環境関連学生サークルである京都大学の「エコ〜と京大」、「えこみっと」、本学の「KIT環境サークルあーす」に所属する学生がパネルディスカッションを行い、それぞれの活動について「大変だったこと、良かったこと」「環境への考え方に生じた変化」「今後の活動に向けて志すこと」などを議論しました。参加者からは、「ごみの処理に関して日本を世界の国と比較して話してくださいだったので、問題点などが頭に入りやすかったし、興味のある話題だった」「一人暮らしを始めて、自分の出すごみの多さと分別の難しさを実感した。この講演をきっかけに、今一度見直したいと感じた」「様々な環境サークルが、それぞれの課題と向き合っている姿をきっかけとして、体験教室を実施しています。例年実施している小学生が親子で参加できる体験教室は、7月に児童28名と保護者ら37名が、12月に児童22名と保護者ら27名が参加しました。

9月のKIT嵯峨サイエンスカフェ「京都工芸繊維大学と蠶（かいこ）のふしぎ」では、中学生から社会人など10名が参加しました。蚕・桑・養蚕の話や蚕飼育現場の見学、蚕糸資料ギャラリーの紹介などを通じて、養蚕や大学の歴史を知っていただけました。10月の秋の体験教室2024「園場で自然と親もう!」では、要支援学級の生徒たちに園場を安心して自然と親しんでいただける機会の提供を目的として、京都市立鳴滝総合支援学校の生徒たちを招き、車イスの生徒さんをはじめ生徒6名と先生らが柑橘類やサツマイモなどの収穫を体験しました。2019年度から参加いただいている生徒さんからは、心のこもったお礼状を受け取りました。

- 3 | 社会人教育公開講座 ～テキスタイルのサステナブルマネジメントとテクノロジー～** テキスタイル産業は大量生産・大量消費、大量廃棄、ライフサイクルの短命化などから環境負荷が非常に大きい産業と指摘され、国際的な課題となっています。繊維科学センターでは、信州大学繊維学部ファイバーイノベーション・インキュベーター施設と連携し、社会人向け教育公開講座「テキスタイルのサステナブルマネジメントとテクノロジー」を9～12月に開講しました。1日目は、テキスタイルでサステナブルな取組を実施している京都市内の企業を見学し、個人のファシリテーション力を高める研修を受けます。2日目はDX（デジタルトランスフォーメーション）を課題として、繊維企業のDX化事例を聴講した後、DXとは何か、なぜ必要なのかを学び、グループディスカッションを行います。3日目はオンデマンド事

業例やサーキュラーファッションから環境を学び、繊維産業での作りすぎや使用素材を減らし無駄を省く方法について議論します。4日目は、アップサイクル事例のほか、演習を含めライフサイクルアセスメントについて学習します。5日目の課題は国際化です。アパレル・繊維産業を取り巻く国際情勢を、続いて国際認証の一つであるBCoP（B Corporation: 社会や環境に配慮した活動を行う企業への民間認証）について学び、認証取得を検討できる知識と情報を習得します。2022年度から3年間で、41名（企業28名、一般社団法人や一般財団法人9名、公設試験研究機関3名、大学1名）の幅広い受講者が本プログラムを受講しました。この講座は2025年も開講予定で、引続きテキスタイルをサステナブルに考え、グローバルに環境問題に取り組める人材の育成に貢献します。



4 | 京都工芸繊維大学と蠶(かいこ)のふしぎ



4 | 園場で自然と親しもう!



5 | 8月合宿の最終プレゼンテーションの様子

- 5 | 地域創生Tech Programの取り組み** 本学は京都北部を舞台に「地域創生Tech Program」を通じて、学生の主体的な学びと地域理解の深化を推進しています。1年生対象の集中講義「地域課題導入セミナーI」では、京都府北部の5市2町（福知山市、綾部市、舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）から提示された実際の地域課題に対し、29名が7チームに分かれて取り組みました。5月には京丹後キャンパスで1泊2日の合宿を実施しました。チームビルディングや課題検討に加え、学生たちが自炊し食卓を囲むことによりチームの一体感も醸成されました。その後、8月に2泊3日のフィールドワークを行い、学生たちは最終日のプレゼンテーションに向けて議論や資料作成に励みました。綾部市から提示された「水源の里かんばらにおける竹林を活用した地域振興策」に対する提案は、現地でのイルミネーションイベントへと発展しました。参加学生は冬に竹細工による照明を制作・展示し、翌年度の「地域課題導入セミナーII」の講義へと継続的に関わる道を選択しました。このように、地域課題に実際に触れることで、学生たちの中に「地域と共に課題を解決したい」という意識が芽生え、実践を通じてその姿勢が育まれていく様子が印象的でした。地域とともに歩むこの実践は、学生たちにとって単なる学びにとどまらず、将来への志を育む貴重な出発点となっています。

6 | 「ミニぶらっとお持ち帰りコーナー」の設置 附属図書館では、図書館活動の啓発や不用図書の有効活用を目的とし、図書館で廃棄となった蔵書や、教職員・学生から寄附を受けた図書を無償で提供するイベントを開催してきました。2021年からは図書館のエントランスの一角に「ミニぶらっとお持ち帰りコーナー」を設置し、常時図書を無償で提供できるように改めました。2024年度には1,405冊の図書が持ち帰られ、大変好評でした。本事業は今後も継続予定で、常時図

- 7 | 産学公連携推進センター 地域と連携した環境イノベーションの推進 — 環境技術セミナーの開催 —** 産学公連携推進センターでは、環境安全方針の基本理念に基づき、持続可能な社会の実現を目指して、京都リサーチパーク（株）(KRP)と共同で「環境技術セミナー」を開催しています。2024年度は「熱電変換技術」「CO<sub>2</sub>分離膜」「バイオプラスチック」などの環境技術テーマを取り上げ、各分野の最先端の研究成果を地域の企業や行政、市民に紹介しました。セミナーは全4回開催され、合計80名（各回約20名）程度が参加されました。講演後には参加者と研究者との活発な議論が展開され、具体的な課題解決や産学連携につながるネットワークングの場となりました。本セミナーは技術紹介と産学公連携を見据えた活発な交流を通じて、地域社会における環境技術の実用化を促進することを目的としています。参加者からは「専門的な内容が分かりやすく、企業活動に役立つ具体的な情報が得られた」「地域の環境問題を考える上で参考になった」など好評を得ています。本学は、「京都思考（KYOTO Thinking）」という創造的挑戦の精神を大切にし、研究成果を広く地域社会へ還元することを目指しています。KRPと連携した本セミナーは、京都という環境先進都市からグリーンイノベーションを推進し、地域および国内外の企業組織との共創を促す重要なプラットフォームとなっています。今後も環境問題の解決に向けて、産学公の協力を深化させ、環境技術の社会実装を積極的に支援し、持続可能な未来に向けた地域社会とのコミュニケーションを継続的に行ってまいります。

- 6 | 「ミニぶらっとお持ち帰りコーナー」の設置** 附属図書館では、図書館活動の啓発や不用図書の有効活用を目的とし、図書館で廃棄となった蔵書や、教職員・学生から寄附を受けた図書を無償で提供するイベントを開催してきました。2021年からは図書館のエントランスの一角に「ミニぶらっとお持ち帰りコーナー」を設置し、常時図書を無償で提供できるように改めました。2024年度には1,405冊の図書が持ち帰られ、大変好評でした。本事業は今後も継続予定で、常時図



5 | 綾部市でのイルミネーション準備作業



6 | ミニぶらっとお持ち帰りコーナー



7 | 2024年5月29日環境技術セミナー #1の様子

## 環境教育・研究活動 / 主要な環境パフォーマンス指標等の推移

環境安全教育・研究活動 本学は「環境安全マインド」をもつ人材育成のため様々な環境安全教育研修を行っています。また、幅広く環境安全関連の研究活動にも取り組んでいます。

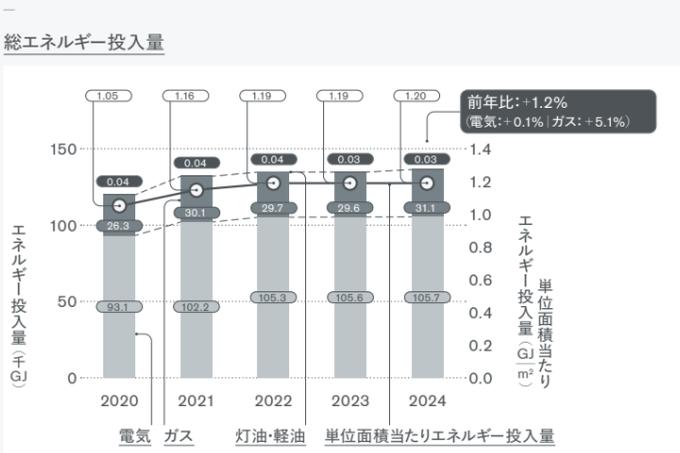
環境安全教育デーにおける教育研修の実施 年度初めに環境安全教育に関する学内事業として本学教職員・学生を対象に「環境安全教育研修」と「高リスク実験実習研修」などをオンラインで実施しました。

環境安全について学ぶ授業プログラム 本学学生は、身近な環境問題から地球規模の環境問題までをさまざまな視点から学び、「環境安全マインド」の涵養に努めています。

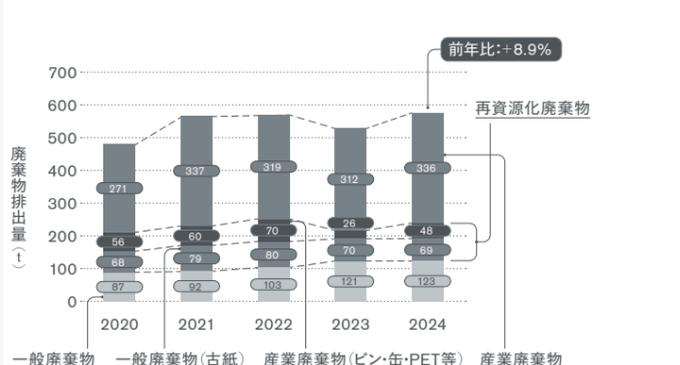
主な環境関連科目（学部）			
地球環境論	資源環境論	造形材料	環境デザイン
工芸科学基礎	京都の自然	建築環境工学	建築環境工学演習
エネルギー科学	リーダーシップ実践Ⅰ ～半径50mの	環境と高分子	環境マネジメント
環境と法	SDGs実践	技術者倫理	栽培環境学
環境問題と持続可能な社会	リーダーシップ実践Ⅱ ～京都市のSDGs実践	環境化学	生物繊維材料科学
資源生物と環境	生命倫理と環境倫理	サステイナブルマテリアル	バイオベースマテリアル科学
		住環境計画	有機資源化学

## 主要な環境パフォーマンス指標等の推移

大学の活動が通常化し、新型コロナウイルス感染拡大前の水準に戻っています。紙の使用量については、オンライン授業やWeb会議の定着によるペーパーレス化の効果が継続しています。



## 廃棄物排出量



# マテリアルバランス

## INPUT

### エネルギー

電力	105,682 GJ
ガス	31,095 GJ
灯油・軽油	30 GJ

### 事務用品・物品等

紙(A4換算)	2,782 千枚
グリーン購入法 特定調達品目	141 品目

### 化学物質

PRTR法対象 化学物質(主な物質)	7,235 kg
-----------------------	----------

### 水

上水	33 千m <sup>3</sup>
井水	23 千m <sup>3</sup>

## OUTPUT

### 温室効果ガス

二酸化炭素	6,050 t
-------	---------

### 廃棄物

一般廃棄物	192 t
一般廃棄物	123 t
古紙	69 t
産業廃棄物	384 t
産業廃棄物	336 t
感染性廃棄物	0.3 t
資源ごみ(ビン・缶・PET等)	48 t

### 特別管理産業廃棄物

有機廃液	18,284 L
無機廃液	1,044 L
固形廃棄物	1,946 Kg

### 水

下水排水	56 千m <sup>3</sup>
------	--------------------

教育研究活動

## RECYCLE

### 廃棄物

一般廃棄物(古紙)	69 t
産業廃棄物(ビン・缶・PET等)	48 t

総エネルギー算出については、  
環境報告書ガイドラインの算定式に従いました。  
また、CO<sub>2</sub>排出量は京都市地球温暖化対策条例に  
基づき報告した値です。

京都工芸繊維大学  
環境安全報告書 2025  
目次

0 はじめに

1 環境安全マネジメント

2 環境安全教育・研究活動

3 環境コミュニケーション

4 環境安全管理の取り組み

5 安全衛生管理の取り組み

第三者意見

環境報告ガイドライン2018年版との対照表

発行

2025年(令和7年)7月

編集

環境科学センター・施設環境安全課

京都工芸繊維大学

環境安全報告書掲載ページURL

[https://www.kit.ac.jp/uni\\_index/  
environment-policy/report/](https://www.kit.ac.jp/uni_index/environment-policy/report/)



国立大学法人 京都工芸繊維大学

〒606-8585

京都市左京区松ヶ崎御所海道町



京都工芸繊維大学  
KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY